

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakatsushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポルック谷九〇四 電話(03)3337714649

FAX(03)3229915367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三一 労金 〇〇中央労金本店 No.1154163

購読料 〓月額700円 6ヵ月前納制

### 〈もくじ〉

#### ■巻頭言■

取引所再考

滝野 忠……………2

汚濁と腐敗、墮落の巢

労働基本権と引き換えに、首切り容認……………3

現代政治と公務員制度「改革」……………5

◇〇六組合大会等から(一)◇  
労働組合「危機」の背景をさぐる……………5

日本経団連、連合、中央委、郵政二労組……………9

友達を増やそう、楽しいことしよう……………10

―「ユニオン ジュニア」結成―……………10

嘆くよりまず集まろう……………14

―青年労働者が「国鉄闘争」で学習会―……………14

湖国に吹く反開発行政、反高負担の風……………11

―野党分裂下、三期目の自公民現職を下した滋賀県知事選―……………11

読者からのおたより……………14

# 刊 旬 社 会 通 信

NO. 973

二〇〇六年七月二二日号

二〇〇六年七月二二日発行  
(毎月一日・二二日・三〇日三回発行)

## 取 引 所 再 考

汚濁と腐敗、墮落の巢

支配階級の世界って本当に狭いんですね。旧通産省出身で投機家の村上君の取り巻き連中は「ヒルズ族」だけかと思っていたらとんでもない。東大という学閥、キャリア官僚の経験を売りに政・財・官にスツと入っていけるんですね。そして、証券取引所を使って、すでに実現された剰余価値を資本家同士が搾取し合う。

「みなさんだまされちゃいけません」と鼻高々で、素人投資家を説教し、村上と「取引」仲間だったホリエモンは、老かいな村上にまんまといっぱい食わされた。投機とはだまし合い、ばかし合いを地でいく喜劇だ。

投機で勝つ秘訣はなにか。情報だ。情報を手に入れるために、あらゆるところに人脈づくりの熱をあげる。金融当局がどんな金融政策を考えているか、大資本がどんな投資計画をもとうとしているか、国会でどんな法案が計画されているか、だれがどの株式を狙っているか。これら情報は金儲けに直結する。競争者より一分でも一秒でもはやく知ることが己の成功、金儲けのもととなる。だから、自動車電話、携帯電話が生まれたんですよ。

情報は実力者からのものもつとも確実、したがって価値が高い。村上君は日銀総裁と懇意だった。日銀総裁は「不遇」だった富士通総研理事時代、村上ファンドに一千万円を預けた。村上君はこの人物をアドバイザリ・ボンド（相談役）の一人とした。この人物とのつながりは村上君の人脈を次ぎつぎと広げていったにちがいない。

とりざたされているだけでも牛尾治朗（牛尾電気社長）、宮内義彦（オリックス社長）ら「小さな泉」の取り巻きで政財界を動かす人物、さらには村上と同じ通産省出身の民主党代議士らの名が上がっている。

村上はインサイダー取引で逮捕された。ホリエモンにTBS株買い占めを扇動し、高値で売り抜けたことが、「インサイダー」とされたのだ。一般投資家が知り得る情報はすべて活字、インターネットに流されたもので、投資にはすでに古い情報だ。それらを再構築、再構成し将来の企業業績を占う。したがって、持ち続けるのが常識だ。他方、証券会社と言われるとおり売買し、せっせと小金儲けに忙しい投資家も多い。未公開株で「一儲けしませんか」はそんな類だ。そんなうまい儲け話があるならアカの他人に譲り渡すなど考えられないと思うのだが。

資本主義の発展と成長は生産現場での搾取から、搾取された剰余価値をいろんな取引市場で資本家同士が搾取し合う鉄火場と化した。儲ける者がいれば必ず損する者がいる。儲けたければ人より一分、一秒はやく正確な情報入手する他にない。情報入手のために金が飛びかう。また儲けさせていただきましたからと、「返札」の金が飛びかう。取引所はこうして、商品・貨幣発生以来、いつも汚濁、腐敗の元凶でありつづけてきたのだ。

(滝野 忠)

# 労働基本権と引き換えに “首切り” 容認

— 現代政治と公務員制度「改革」(三) —

国・地方の赤字一千兆円!?

公務員制度「改革」は、公務員を「官吏」でなく一般労働者なみに処遇するという。国際労働基準（労働三権）を「付与」することは当たり前。労働三権が「付与」されれば、これまで代償措置としてあった①人事院、②勧告制度廃止はこれまた当然だ。

公務員攻撃、自治労を中心とする自治体労働者への大々的な攻撃は、国と地方の政治家、政治家・官僚と癒着し国と自治体を食い物にしてきた土建屋どもの結果である。国の赤字は八百兆、地方二百兆、しめて一千兆なんて庶民には実感不能な数字が政府から乱発され、心優しい国民は「なんとかしなければ」の気にさせられる。ヤクザ以上の脅し、脅迫だ。その数字が真実なのかウソなのか、だれにもわからない。また、現政治体制では知る術もない。政府発表をマスコミはそのまんま伝え、マスコミ報道の反応を政府は観察し、次の手を考える。

公務員制度「改革」の背景はこんな政府の宣伝と公務員「厚遇」、不祥事批判キャンペーンによる。公務員は何百万人という。個人的な不祥事は当然のことで、批判を省みず断定すればどこにもあることだ。下級公務員・労働者はほんのささいな「不祥事」で懲戒免職とされる。政治家、大企業とゆ着するキャリアが首を切られたとの前例は皆無である。キャリア官僚は放免され、現場で黙々と働く一般公務員には厳しい処断がくだされる。それは民間職場でも同じだ。「お前、百円とつたろう、懲戒免職」というようにである。

## 「厚遇」問題の本質

不祥事と「厚遇」は根本的に違う。小零細企業主、労働組合とは「無縁」の小零細企業に働く労働者は公務員労働者の労働条件をうらやむ。己の日々の労働実態とたまに役場に行き、そこで実感することに「違和感」をもつ。そして、こう結論する。「おれたちは生きるか死ぬかで苦しんでいるのに、あのノンベンダラリとした仕事ぶりは何か。仕事をやってるようには思えない。それなのにあんなに厚遇されている。ケシカラン」との感情問題だ。

政府は公務員労働者個人々人を標的にすることで、本当は全国に組織をもち、地域の労働者、住民の生活実態をもっともよく知って、何とかしなければならんと日々悩み、努力している組合と組合員を地上から消し去りたいのだ。「厚遇」問題の本質は何か。二つの長所と短所があった。労働組合はたたかい、労働条件を改善した。他方、改善した労働条件を「隠し田」とし横、つまり地域全体に広める努力を怠った。そのツケが労働運動に襲いかかっているということである。

## 目的は「社会的パートナーシップ」

連合の「考え方」にはこれへの反論はいっさいない。それどころか「厚遇、ムダ使いや不祥事」を国民感情と受け止め、「賃金・労働条件のあり方」が論じられる。

「これら批判を真摯に受けとめ、政（議会）・労（職員）・使（首長）は、相互にパートナーとして改革に取り組み」と。

なんのことはない。民間大組合では大昔から主張され、だらしのない労働組合をつくった社会的パートナーシップ（労資協調）の公務員版であるにすぎぬ。われわれ第三者からみても見過ごすことができないのは、「考え方」が公務員労働者の賃金・労働条件策定の基本的な視点として次の三つをあげていることだ。

「(1)具体的に事実を精査した上で、違法行為があるとすれば、労使双方は直ちに是正し、その原因と責任を明確にすべきである。

(2)労使交渉・協議に基づき条例化され、法的、手続的に問題がないが、現在の社会・経済情勢のもとで納税者・国民の感情から理解が得られにくい問題については、労資双方が説明責任を明確にし、合意のもと必要な見直しを進めるべきである。

(3)事実誤認に基づく指摘、公務における労使関係の形骸化・否定につながる考え方、また政治的な対応については容認しない。」

これで労働条件は守れるか。(二)の「違法行為」とは何か。政府・財界は労働組合の「たかひ」を違法とする。だから、「違法」であろうが、「事実誤認」であろうが、「公務員批判」を世論のもとに扇動する。そして「これが国民の声」と切り下げを押し付ける。(三)にいたっては論外だ。これまでの労働組合運動すべての否定につながる。財界は数年前から、「日本の賃金は世界に比べ二〜四割高い。これがデフレ（不況）の原因」と、賃金切り下げを至上命題とした。これに一挙に道を開いたのがNTTのアウトソーシング、賃金一〜三割切り下げた。都市と地方に差をつけ、「地域なみ」賃金とした。それと同じことが公務員労働者に襲いかかる。

(3)についてはもっともらしい。しかし、「厚遇」問題そのものが、①事実誤認にもとづく指摘、②公務における労使関係の形骸化・否定、③政治的対応からもち出されたものではないか。

### 協議の場は設置されたが

「官」の働き方が、「民」と同じにされる。公務員を「官吏」でなく一般労働者並に処遇しようというのであるから、労働基本権を付与するのは当たり前のこととなる。だが、①公務員5%削減、②不安定雇用労働者導入、③成果・成績主義にもとづく労働条件の代償に「労働基本権」が論議されているのが、過去三回にわたる政労協議の結果、六月一六日に閣議決定された「公務員の労働基本権の在り方その他公務員に係わる制度に関する専門事項について調査する」ための専門調査会設置である。

連合は「専門調査会」設置について①成果、②歴史的にも意義と高く評価する。しかし、政府が労働基本権を「付与」することを決めたわけではない。ようやくと論議開始する枠組みがつくられただけである。

この他、五月二九日の第三回政労協議では「首切り」を前提に、「国家公務員雇用調整本部」の設置が合意されている。これは5%削減を政府全体として着実に実施することを目的とする。

◇〇六組合大会等から(一)◇

## 労働組合「危機」の背景をさぐる

日本経団連、連合、中央委、郵政二労組

### 労組が労組を片隅に

**司会** 組合大会が始まりました。商業紙は政治がらみ、巨大組合の人事問題、スキャンダルしか報じません。これまでは厚生労働省の外郭団体が発行する「労働ニュース」が組合役員、活動家、労働問題に関心をもつ人びとの情報源でした。「労働ニュース」は廃止され、厚生労働省の主張を宣伝する月刊誌に改変されたことで、労働組合、労働運動の動きは「闇」の中に捨て置かれてしまったかの状況で、日々刻々の情報を伝える専門紙は、わずかに二つ、三つになってしまいました。

労働組合当事者も「組合員が読んでくれない」と、組合ニュースを次から次へとなくしたり、縮小したり。さらには、記事の興味も一部労働組合を除いて趣味、ボランテア、はなはだしきはグルメを中心にするといったように、「これが労組の機関紙か」と、目をそむけたくなる状況を呈しています。

**A** そうなんだ。労組そのものが、労組を社会の片隅に追いやっちゃってる。労働組合の危機の本質は、そこにあるんだよ。

**司会** 〇六年組合大会は五月下旬の日本経団連第五回定時総会、六月はじめの連合中央委員を皮切りに、六月初旬から中旬のJR二労組（JR総連・JR連合）、六月一四日から一六日までの同じ日程でおこなわれる郵政公社二労組（旧全通・JPU、全郵政）、七月初旬の電機連合とつづく。

今、どんなテーマが、どのように論議されているのか、当事者の組合員、取材されているみなさんから特徴点について簡潔にご報告いただきたい。日本経団連総会ではトップがトヨタ会長の奥田氏からキャノンの御手洗氏に変わった。キャノンとはどんな会社なのか、そして新会長の御手洗氏は経団連をどのように舵取りしようとしているのか。そんな所から始めたい。

### 経団連はさらに反動化

**A** 経団連が日経連を吸収合併し日本経団連となったのは四年前だ。吸収合併の背景にあったのは、①労組が弱体化し日経連という労務政策を専門に行う経営者団体が必要でなくなったこと、②独占資本間の国内外の競争が熾烈になり、財界の政策を政府に直結反映する必要が高まったことによると思われる。この具体的現れが保守政党への政治献金再開、憲法・教育基本法改悪に二つの保守党と呼応し、ドラ声上げ始めたことだ。

日本資本の「多国籍」化と海外への投資拡大を財界「反動化」の理由に上げる人もいる。必ずしも間違った意見ではない。本質は憲法問題が国民世論を分裂させない所まできたという彼らの判断によるんだ。財界ほど政治の安定を求める組織はないからね。労組の体制内化、そして「護憲勢力」をたたきのめした「自負」の現れなんだ。

新会長の御手洗氏はこの路線を踏襲することは間違いない。しかし、組織はトップの個

性が強く反映する。どこでも云えることだよ。

キャノンとはどんな会社なのか。売上高は連結で三兆八千億円、単体では二兆四千億円。労働者数はそれぞれ十万人八千人、一万九千人だ。海外生産比率は七五%にもなる。キャノンはカメラメーカーとして発展した。今では世界シェア六〇%を占めるLBPが中心で複写機、カメラなどだ。トヨタの売上げ十九兆円とは比べるべくもないが、〇五年度の純利益ランキングでは三千八百億円を上げ十番目に位置している。ちなみに一千億円以上の純利益を上げる日本の会社は四十三社ということだ。

奥田氏は「日本人」だった。彼はたとえば「武士道」「そく隠の情」というように、日本語で方針を語った。御手洗氏は外国暮らしが長かったことからかもしれないが「INN OVATE 日本」をスローガンに掲げたようにカタカナ語が多い。生産性向上に遅れをとるなどいいたいのだろうか、「コンペテイティブ・エッジを不断に創出し続ける必要」、「広義のイノベーションによる全要素生産、いわゆるTEPの上昇」と、「コレツつてな」に「経営者でも解説してもらわないとわからない用語が多い」。

第五回総会は、したがって御手洗氏の就任あいさつへの見出しに「日本を魅力あふれる『希望の国へ―内外に開かれた挑戦のフロンティア』とする。これは奥田が強調した武士道、そく隠の情の御手洗版として、あいさつ後段で―

「内外に開かれた挑戦のフロンティアこそ、私が思い描く希望の国でございますが、もう一つ必要なものがあります。自立自助、積極進取の精神を従糸とすれば、他人を尊重し、弱者を思いやる心という横糸がなければ、希望の国は成り立ちません」。

から取られたものだ。彼の「弱者を思いやる心」とは、「祖国のためにどのような貢献」ができるかということ。その上に、「政策本意の政治を実現するために企業が行う政党への献金は社会貢献の一つ」とのたまわく。経団連は政策を金で買うというのであり、こうした社会貢献を『愛国心』と呼びたい」と主張する。

○六年度の事業計画では①優先政策事項の推進による政策評価、②憲法と教育基本法、③ホワイトカラー・エグゼンプションが上げられる。財界・資本と国民・労働者の対立・抗争は、こうして深まっていかざるをえないことを鮮明にしたのが今回総会の最大の特徴だ。

**司会** 経団連の政治献金はどれくらいか。

**A** 〇五年度には二十五億円にもなる。これを四十億円にすること、そのために外資比率が五〇%をこえている企業からも政治献金を可とする法律をつくりたいとする。

**B** 企業の不祥事が相次いでいる。コレへの対応はどうか。

**A** 「最低限の責任」とは述べている。しかし、資本主義であるかぎり「不祥事」はなくてはならない。それが、資本の本質つてことを強く宣言し、資本主義というシステムに反対する力を作っていくことではないか。

### 参議院選に全力

**司会** 連合の中央委員会はどうかだったのか。

**B** 貴誌九七一号（七月一日付）に詳しく、正確に報告されていますから、つけくわえることはありません。連合が今もつとも重要視していることは、小沢の民主党とラブラブに

なつて「政権交代」を実現したいとしていることです。だから中央委員会では直接の議題とはされませんが、〇七年参院選への態勢づくりです。われわれ労働記者に選挙への関心がないといえはウソになりますけれど、商業紙の記者の関心はすべてそこです。

連合は参院選候補として八人擁立を決定しました。自治労（女性）、自動車総連、電力総連、情報労連（女性）、基幹労連、電機連合、日教組（女性）、ゼンセン同盟です。小沢氏は連合に郵政から出せないかとの誘惑を強めています。理由はみなさんお分かりですよ。ね。さきの衆院選で郵政民営化に反対し、自民党から除名され新しい党をつくった議員とその支持団体を取り込みたいとの思惑ですね。自民と民主がすさまじい権力闘争に入ったことを告げているのです。

**司会** 現代社会の階級構成は労働者とその家族が有権者の九〇%弱を占める。二つの保守党は彼から票を取らなければ絶対に当選しない。

**B** そういうことで、労働者票をどう取り合うかが、〇七年の参院選の焦点です。参院選結果しだいでは政治の流れは大きな変化も予想される事態に突入する可能性も否定できません。

今のマスコミ界は階級脱落者、したがってルンペンといつていいニュース・キャスター、電波芸人であるタレントに占拠されていますよね。彼らがマスコミ界で生き残れる道は視聴率、おもしろく無責任な発言と行動なんです。ぼくは一年間に百七十回もTVに出てるなんて自慢しているバカな学者、評論家、タレントが少なくありません。生放送にしたってTV局の取材は生半可じゃないんだよね。事前の取材で平気で一週間くらい時間がとられちゃう。面白くなければ即「降板」でしょう。

ぼくはルンペン、中産階級の概念について考え直さねばならないんじゃないかと、今深刻に考えてるんです。そのヒントを与えてくれたのが向坂逸郎先生です。先生の大昔（昭和九年）の本に『統制経済論総観』があります。ウント昔に買っていたものでファシズムについて、何か考える素材はないかと、埃の中で見付け出し読み始めたのです。その一章に『ファシズムの本質』があり、おもしろい。これを「下敷き」というわけです。

**司会** 小泉人気の背景はなんですか。

**B** 小泉がルンペン、階級脱落者ということですよ。自民党総裁なら、党の支持基盤を強くするため努力し、がんばるんですよ。彼は、「自民党を壊す」と平気の平座、アツケラカシと云って恥としない、それが受けた。タレントですね。小泉は政治家タレントになっちゃった、それがすべてということです。

これには異論があると思いますけれど、もつとも分かり易い分析とっています。

## 郵政 組合統合へ

**司会** 郵政はすでに民営化されたと同じ状況です。民営化・分割（五事業。持株会社、郵政窓口会社、郵便会社、貯金会社、保険会社）は来年十月。二十八万郵政正規労働者の五会社への配属Ⅱ振り分けは今年十月とのことです。国鉄の分割民営化は黒字の本州三社、赤字の三島会社と貨物で地域でハッキリしておりました。

郵政の場合、黒・赤は国鉄よりはるかに複雑、かつ錯綜している。郵政窓口会社は幽霊です。どこに配属されるか、労働条件はと郵政の仲間は毎日不安にさいなまれ、夜も寝ら

れない状況なので。手元に方針案があります。議案一九頁に「勸奨退職」との項がある。「〇七年四月一日から〇七年九月三〇日までの間、勸奨退職は行われません」と。こんなことよく書けるなど、ぼくなんか思うんですけどね。

**C** JPUなんて、だれも使いません。ぼくらはやっぱり全通だと。それが組合員の気持ちです。

組合員の気持ちをもっともよく表現しているのが、近畿地方本部で全国大会代議員に立候補した谷口吉郎氏の所信表明です。

「朝は時間前着手に始まり、昼の休憩・休息は十分位とする。時には昼食を取らずに仕事を続けている。連日超勤だが、事前の発令行為はほとんどない。勤務終了時もオーバーする。夜間の再配達は午後十時を超えることがある。

明らかに異常な職場実態であるのが淀川局集配営業課である。労働組合として、これらを改善せずに何を語ることがあるだろうか」

職場には①すさまじい職場実態、②それを許している組合への批判はものすごい。谷口氏は代議員選では敗北した。支持してくれた組合員へのお礼のピラマキを各局門前でおこなったが、近畿地本は「即刻中止させろ」との指導。これが恥ずかしいけれど現全通の現状です。だから、組合員は上からの「説教」にあまり関心を示してはおりません。組合本部「不信」は悪いことではない。しかし、残念ながら「本当の労組をつくろう」とはなっていない。最大の課題点です。

**司会** 労組大会の課題はなにか。

**C** 大きく五つ。①職場の帰属（雇用、新会社、労働条件等）②集配拠点の再編、貯金・保険外務員の集約化③地域給導入と改正退職手当法への対応④非常勤職員の処遇改善（キヤリアスタップ制度等々）⑤全郵政との組織統合など。今年二月に郵政民営化反対の旗を降ろし、「現実対応方針」を提起した第六一回臨時全国大会は九三%の圧倒的本部支持で終了した。本部書記長が感激のあまり「涙した」ことは有名な話。根回しされた全国大会はともかく地方段階における（特に近畿地本）討論は、まさに職場実態のオンパレードである。職場からの「意見」を封じるほどの力も地方本部にはない。それだけ職場では覆い隠しようのない矛盾が拡大している。

これが私どもの地本の特徴だし、他も同じ傾向だと思う。しかし、これら「反対」の力が一つにはならない。

**司会** そこなんだ。現場組合員で悪い本部方針に賛成する仲間が少ない。だけど本部方針に流されてゆく。

憲法問題では「護憲勢力集まろうよ」との声が高い。けれど「本当の労働組合つくろうよ」との声は皆無だ。労働組合に関心もつ人から呼びかけがあつていいのではないか。

**A** 榎枝（元総評議長）さんのように、本来の労働組合をつぶした人が、今頃「憲法守れ」なんていつてる。こんな人、私は信用しない。だれもそうじゃない。現職時代に身体張つてこそその指導者でしょ。

**C** 大会の主要課題はさきに述べた民営化に向けたとりくみの他、全郵政との組織統合問題がある。組織統合に熱心だったのは全通です。今は攻守所を変え、二月以降、全郵政が積極的。全通は「組織統合を現実的課題として認識し、具体化への環境整備に入る」と、

「郵政事業の成長・発展と社会的使命の達成および生産性向上を寄与する」を統合の基本的考え方とする五つを掲げています。これが最大の考え方で「組合員が『生きがい・働きたかい』を持てるよう一人ひとりの自己実現を支援する」といつても賛同する組合員はたくさんおられます。

**司会** 全通本部は「われわれは階級的労働運動とはサヨナラした」といつてはばかりません。こうなると、「民主的」労働運動、生産性向上労働運動への競い合いがあるばかり。全郵政の組織競合への考え方はどうなのか。

**D** 「全通は我が軍門、路線にひざまづいた」が根本。「民主的」労働運動の路線に賛同されるならどうぞとの姿勢。それに「対等合併」——全通十二万、全郵政八万六千——、全通路線の過去の清算——階級的労働運動の全面否定——を要求している。

**司会** 労働条件は一九六〇年代の状況に陥られました。労働者の意識もそう。それは、NHKが五年ごとにおこなっている意識調査の記録に明らかだ。

じゃーどうするか、どうしたかうかが課題。国労のようにたたかおうとしたいけれど、国労は四年前の最高裁判決で挫折した。この国労に新しい動きをつくったのが約三百人の「それでもおれたちは闘い続ける」とした鉄建公団訴訟の仲間たち。

(つづく)

## 友達を増やそう、楽しいことしよう

—「ユニオン ジュニア」結成—

あいろ不動産での解雇問題等により、最近武庫川ユニオンに二〇代から三〇代の若者の加入が見られるようになってきました。しかし、全体的に見るとまだまだ少数。社会を見渡しても若者の組合参加はごく少数。この状況を打破していくために、そしてより多くの若者に積極的に活動に参加してもらうために、若い人たちが若い人たちの視点で考えていく必要があるのではないかと、ということ、五月一七日(水)午後六時三〇分より武庫川ユニオン事務所にて、第一回青年組合員懇談会を開催しました。参加者は竹村さん、野畑さん、二宮、そしてあいろ分會から二名、さらに指導者として小西さんの計六名と少なめでしたが、内容的には充実したものでした。

はじめに小西さんから現在の青年労働者を取り巻く情勢とユニオン運動の説明をしていただき、ユニオン青年との関わり方についての問題提起をしていただきました。

小西さんからお話をうけて、みんな「もつと多く若者に活動参加してもらうために自分たちに何ができるのか、何をしたいか」ということについて話し合いました。けれど最初は、「今の自分たちのような若い人たちは、それほど仕事にプライドを持っていないようなので、会社をクビにされてもあまり気にならないのではないかと」「実際ユニオンに友達を誘うことも理解されにくいので難しい」とネガティブな意見が目立ちました。

そこで「もし友達が困っていたら助けるよなあ、友達の友達が困っているも助けるよなあ」という話から、「友達を増やそう!」という話になり、「楽しくなければ若い人は集まらない」という考えから、「友達を増やすために若者たちだけで楽しいことをしよう!」

ということになりました。

具体的な内容はあえてここではお伝えしませんが、最初は小さな友達の輪でしようが、少しずつその輪を広げ、ユニオンの活動を広く世の中の若者たちに浸透させていくことができればいいなあと考えています。団塊の世代が引退すると言われている二〇〇七年問題を悲観的に見るよりも、今だからこそ新しい労働運動への転換期として若い力で新しい風を吹き込むことができるよう、ちよつとずつ前進して行こうと思いますので、皆さん温かい目で見守っててください。

ちなみに、最後に小西さんから「名前を付けたほうがいいのではないか」という提案を受け、思い付きで「ユニオン ジュニア！」と言ってみたら、意外にも他の参加者から「かわいい」と好評だったので、とりあえず「ユニオン ジュニア」という名で活動していきます。

(二宮 基)

## 嘆くよりまず集まろう

―青年労働者が「国鉄闘争」で学習会―

この十数年、全国的に青年層の組合離れが顕著になっていきます。様々な要因(原因)がありますが、嘆くよりも、まず集まり一つひとつ積み上げていくところからしか克服できません。六月二日、大野地区(大分県)平和運動センター青年協は、前回の「人らしく生きよう」の上映会(百名参加)に続いて、四〇名が参加し「国鉄闘争」を学ぶことよって、この二〇年の労働運動の流れを学習しました。アンケートからの紹介です。

◎労働組合の意義を正しく理解できていない青年部層は多くいると思います。自分の生活、普通に生活できている状況が、今後どのように変化していくのか。本気で考えることができる組合でなければ…

(二七歳)

◎とてもわかりやすいお話。かつ実体験にもとづいた話で、大変身につまされました。マスメディアの情報に流されがちな人々が多いなかで、本当に自分で判断できる目を持ちたいと思いました。

(二七歳)

◎我々青年層の将来にとって重大な変化が起きていることが認識できました。現在は強者だけ得をする社会で弱い者たちをコントロールしている。社会がいびつな形でしか機能しなくなる方向に向かっている。労働組合は、それに対抗する力を失ってはならないと思う。

(二八歳)

◎若い人たちには関係ないと思いますが、実は自分たちが直面しているということとを聞かされ考え方を改めないといけないと思った。過去に犯した過ちを、また繰り返すべきではない。そのために平和憲法を守らなければ。

(二六歳)

◎労働組合は自分の生活を守るためには必要だと思う。どうあるべきか考えさせられました。自覚と自信を持ちたいと思いました。

(三二歳)

◎労働組合の大切さをみんなが感じることができないかと思う。「逃げている」「人に任せている」人が多くなることが残念に感じる。改憲反対！我々は国の奴隷ではない！本当に支持できる政党ができないものか…

(三三歳)

## 湖国に吹く反開発行政、反高負担の風

― 野党分裂下、三期目の自公民現職を下した滋賀県知事選 ―

### 政治家の資質とは

本年六月一五日告示、七月二日投票で実施された任期満了に伴う滋賀県知事選挙は、自公民推薦で三期目を狙う現職・国松善次候補（六八歳）に、社民党支持の京都精華大学教授（環境社会学・農学博士）の嘉田由紀子候補（五六歳）、共産党推薦の県労連議長（県職労委員長から）・辻義則候補（五九歳）の二新人が挑む三つ巴で闘われた。

争点はJR新幹線新駅（栗東市に予定）建設、ここへの二四〇億円の県民負担の是非。結果は誰もが思わぬものとなった。このJR新幹線新駅建設推進はもとより、大型産業廃棄物処分場・ダム建設推進などの無駄遣い、憲法九条改悪とあいば野日米合同軍事演習容認などの平和を踏み付けする立場に加え、イベント好きでパフォーマンスばかりと保守陣営からもかなりの不人気であることは知っていた。が、そうスキヤンダルがあつたわけでもない三期目をめざす自公民（二期目は社民党も推薦）推薦の現職知事、農政連・連合・創価学会など約二五〇団体を擁するその候補が、野党分裂にも関わらず、政党推薦もない見るべき組織もない知人の研究者・学生が寄った「素人集団」に負けてしまったのであるから。

都道府県の知事選レベルでこのような事態が生じたことは、滋賀県はもとより全国でかつてあつただろうか。七月三日・月曜の昼くらいになると、「二日前には嘉田の当選はわかつていた」としたり顔で言う者も現れたが、投票日までに予測した人間は一人もいなかった。「先見性」が政治家の資質なら、政権与党の自公はもとより、「相乗り禁止」の例外を認め地元利権で判断した小沢・民主も（来年の統一地方選や参院選にも影響しかねない痛い『一敗』だ）朝日新聞七月四日社説）、野党候補統一を途中で断念して新駅「凍結」では不十分だと、口を極めて嘉田候補を批判し惨敗した共産党もみな指導部は資質を問われた。

そして「現職に漁夫の利を与えてはならない。」と、「反自民・反国松の自主投票で行く。嘉田・辻両候補は最後まで統一めざし尽力を」と訴えた滋賀・新社会党も含め、嘉田候補が当選してしまうなど、思つてもみなかったのである。現職・国松知事の落選は、ブラジルのサッカーが負けたことよりよっぽどの驚きだった。「滋賀県知事選ショック」は当分さめやらないだろう。

当選して一番驚いたのは、嘉田候補とその陣営、政党としては唯一支持した社民党（連合推薦などのため党公認とせず当選している党員県議が一名のみ）だろうが。

### 負担増反対のうめき

ではなぜ嘉田候補が、こんな普通絶対に勝てないパターンのもつて、現職に三万票もの差で勝ってしまったのか。予測は誰一人出来なかったが、勝因は明確である。それはこの選挙の争点が、先述した県などが推進している新幹線新駅の建設、県民負担

二四〇億円増の是非となったからである。負担増反対が県民の回答だった。

投票日も絶妙の設定となった。投票に先立つ六月、いっせいに県内各家庭に国保や年金支給、場合によっては就学援助金等の書類が届く。昨年度まで受給できた就学奨励費が「国の三位一体改革による国庫補助制度の廃止と自治体の行財政構造改革方針」（役所の通知文）で打ち切られた家庭は多い。控除額カットなどによるあまりもの負担増で、役所の国保係には相談三時間待ちの列もあった（六月二〇日朝、京都市伏見区役所）。〇〇年から国保加入者が受診抑制で二一人が死亡とも（朝日新聞七月四日一面）。

職場でも夏季一時金、少しは上がっていいはずが、税金・社会保険料がかさみ、手取りは数年前より一割以上減っている実感。そこに、「県民二四〇億円負担の是非」と問われれば、そんなに革新色の強くない滋賀県民も新幹線新駅に「七割近くの有権者が反対」（京都新聞七月三日）となり（六七・五％）、その「反対した人のうち約六割が『凍結』を掲げた嘉田由紀子氏に投票した」（同前）と、出口調査で明らかとなっている。

落選した国松氏自身、「県民が小泉改革への不安を抱える中、体制側と見られ、選挙で多分に影響した」（「税制改正に伴う高齢者の住民税増など」負担増の実感を持ち、消費税が上がりそうな気配が暗雲のようにある。そうした有権者の不安が少なからず影響した」（朝日新聞七月四日）と語る。とりわけ滋賀県は一般会計の一・七倍もの借金を抱えているからなおさらである。

いわゆる「オール与党対共産」パターンの前回投票率三〇％台より、三つ巴で四〇％台に乗せたとはいえ、無党派層が台風を起こすほど投票所に足を運び、嘉田当選を果たしたのではない。そうではなく、前回「国松」と書いた民主党支持者の六四・八％、自民党支持者でさえ三三・九％が負担増に耐えかねて、「嘉田」と書いたのである（前述、京都新聞）。それが決定的勝因である。もちろん、無党派層では嘉田候補は五九・一％とっているが。

これは他地方はもとより、兵庫・大阪、いや京都の人さえ知らないことだが、滋賀の人は京都人以上に京都に詳しいのである。それは滋賀県の都市的機能が県南の京都との境に集中し、滋賀県内のあちこちに行くより、京都に出たほうがはるかに早いからである。新幹線新駅予定地最寄のJR在来線・草津駅から、京都まで新快速で一八分。新幹線新駅まで滋賀県内からわざわざ出てきて、ひかりとこだまが一時間に上下各一本ずつ一日六七本運行の県内新駅に義理立てするより、一時間に平均八本、一日に三〇〇本のぞみ主体の京都駅に出た方が話が早いのである。まだ便利のいい湖東のびわこ線（東海道線）沿いでこんなことから、筆者のように湖西線沿いの人間は、いったん京都の山科駅で乗り換えせねばならない新駅など絶対に使わない。新幹線利用の湖西の「ビジネスマン」など、国松には一票も入れなかったのではあるまいか。

### 新駅、予算執行中止へ 新滋賀知事が明言

新駅建設「中止」を訴えて共産党の基礎票もままならなかった辻氏同様、県職員でもあった嘉田氏は、二日夜の当選直後からマスコミ取材に応じ、テレビ・新聞で「有

権者が実質的な判断を下した。できるだけ早く手続きを止める」（朝日新聞七月三日夕刊）と、行政専門用語も駆使して歯切れよく回答している。これも「予想以上に」と言っては失礼だろうか。

「政治的に全く無名の女性研究者が、二期八年の実績を持つ現職知事を打ち破った。少子高齢化や住民税などをめぐって政治の閉塞感が強まる中、『変革』を求めた有権者の支持を一手に集めた」と七月三日の朝日新聞は報ずる。嘉田氏は「約二五年の間、琵琶湖周辺を歩いて水と人とのかわりを調査しており、クリーンなイメージが無党派層に受け入れられた」（同前）と言うが、琵琶湖水系すべてを細かく歩き、ほとんど頭の中に入っていて、選挙車が細い路地に入るのも、候補者が直接指示したという。

本年五月二一日に滋賀県大津市で開催した新社会党・社民党・みどり・市民派地方議員が呼びかけた「いのちと平和の近畿ネット」（仮称）第二回交流学習会の懇親会に出席した嘉田氏は、演説をするのではなく、すぐに参加者との問答を始めた。個人演説会でも演壇に立たず参加者と同じ目線で、街頭宣伝でも対話をしたという。それが口伝え、メールネット、電話で短期間だったが静かに、思わぬ広がりをつくりだした。

### これが全国へ波及

琵琶湖周航の歌で滋賀県ゆかりの歌手・加藤登紀子さんも嘉田氏の応援に来て、そのための歌も作り披露したという。選挙応援などでは日ごろ全く見受けない、三年前本紙でも紹介された琵琶湖里山の写真家・今森光彦氏も嘉田氏当選に力を發揮した。筆者も高校のPTA役員時、お母さん方に熱烈な今森ファンが多いのに驚いた。県内書店には写真集がいつも平積みしてある。「もったいない」を合言葉に、淡い緑をシンボルカラーにして、そのような広範な人たちの心を嘉田候補は捉えていった。

一方、思わぬ保守系業者団体の支持を得たり、自民党のある地域組織、民主党のある県議の公然たる支持も嘉田氏は受けていた。そのためか、地元の「九条の会」の発足には連名した嘉田氏だが、「しかし、滋賀の新社会党としては、嘉田氏の政策が『憲法』に全く触れず」（週刊新社会六月二七日）、要請を受けたが新社会党は支持には至らなかった。が、「いずれにしても、本当に国民の要求を少しでも早く、また、たとえ小さな成果でも実現するためには、一步の前進をめざす姿勢が求められている」（同前）以上、自公民二期八年現職という「琵琶湖の大型観光船」を向こうに回して見事勝利した、水郷めぐりの手漕ぎの小舟（朝日新聞七月三日）に、力を込めた声援を贈りたい。

古くは、この「水郷」のある近江八幡などは、近江商人、すなわち日本ブルジョアジー発祥の地である。近くは、いい例えでないが、「労四」という（総評・同盟・中立・新産別で非自民候補をつくり一人区の参議も知事もとる）「連合・民主党」の草分けの地でもある。交通の要所、古来より様々な思想・文化が流れ込み、滋賀は良くも悪くも時代を先取りする県なのかもしれない。

七月初めの休日の夜、自公政権の心胆を寒からしめ、小沢・民主の出鼻をくじき、共産党の自省を求めさせた（知事選での共同拒否の結果を葉とし、来年の参院選での

護憲共同を真剣に再考すべし。隣の京都府では、新社会党は知事選・京都市長選でさうとうの無理をして共闘を実現してきている。今次滋賀知事選。中南米に吹く反グローバリゼーションの風」とまでは行かないが、素人集団のクリーンな手漕ぎの小舟は、県民の「今のこの生活苦何とかして」との負担増反対の風に支えられ、湖面にゆつくりとくりだした。

(〇六・七・四 稲村 守)

## ◇ 読者からのおたより ◇

発展を 遅れての送金すみません。益々のご発展を祈念。地方もガンバリます。(鳥取・山田 篤)

編集部より 嬉しいお便りに感謝。ともにがんばりましょう。

ご健闘を 頑張ってください。ご健闘を祈念いたします。

(青森・S)

編集部より がんばります。運動の拡がりこそ元気の素です。

草の根ファシズム つい最近、ぼくの寄稿欄を巡って、茨城の地方紙で起こっている草の根ファシズムの進行についての証拠のやりとりを同封しました、こゝまで「自粛」が進んでいるんですね。それを脳天気にも代々木の森の住人官僚どもは分ならず、頑なに統一連帯戦線づくりを拒んでいるのです、ぼくの場合は細やかなものですが、国労闘争団、増田都子、藤田勝久、田中哲朗：さんらは生活を賭して、この凶潮と闘っているのです。「官僚」共を突き上げるには、どうしたらよいのでしょうか。

(茨城・M)

編集部より バカに付ける薬はありません。私たちが強く大きくなり、彼らを圧倒する以外にありません。

改憲反対、統一地方選 お元気ですか？ 四、五月は憲法改憲反対のとirikumiを地元と千葉でやってきましたが、日常になかなか続きません。来春の統一選に続けたいのですが。

(千葉・T)

編集部より せきは必ずあふれます。その日に備えましょうよ。

廃案に 共謀罪が国会会で成立かと思われましたが、継続審議となりそうです。民主案でも市民団

(京都・K)

編集部より 治安関係法は必ず一人歩きしていきます。つくらせちやいけません。

毎日がこわい 昨年末後輩が毎日×二で頑張っているけど仕事が終わらないと書いてきましたが、私は体力的に毎日×一・五が精一杯で、その精一杯がもう数年続いているような気がします。周囲をみまわしても八時、九時までの残業があたりまえになっています。どうかしなければより、あとしばらくの辛抱よと、我慢している毎日がこわいです。

(鹿児島・N)

編集部より どこもかしこもNさんの状況と同じ。とにかく、健康が第一です。

嬉しいニュース伝えたい いつも私の闘いをのせていただきありがとうございます。嬉しいニュースをお伝えできればいいのですけど…

(増田都子)

編集部より 嬉しいニュース、きつとつくれますよ。リンとしたあなたの姿勢にそれはすでに示されていますもの。

元氣 暑中お見舞い申し上げます。貴誌は読み易く、元氣が湧いてくるので嬉しい。

(愛媛・真鍋知己)

編集部より そういつていただと、小生も元氣が出、嬉しくなります。

よろしく ご苦勞様です。これからもよろしく。

(高知・O)

残りカンパ 一年分、残りはまったく少額ながら気持ちだけのカンパにして下さい。

(東京・S)

編集部より お気持ちに心から感謝。

とうとう飛ばされました！ 四月二四日付で官津局へ。その十日前電話で内示(イタズラかと思っていた)。一九七一年入局、全通加入後スト権スト(七五)、反マル生闘争(七八)、春闘、年末闘争でのストライキ、物ダメ等々多くの闘いを経験してきました。福知山局で「郵便屋」一筋三五年大変お世話になりました。今、片道五〇km(一時間)通勤中。官津局では五十の手習いなかなか覚えられず、地図を片手に栗田・島陰の日本海を横目に見ながらの配達です。海水浴でお見かけの際は声をかけて下さい。労働者は身体が資本です。御健康をお祈りいたします。

(京都・A)

編集部より 地域のことばだけよりも精通していらっしやっただけのように。資本とは非効率なことをやるものですね。